

広田梅林に行ってきました!

梅に見惚れてます、安井さん。



盲ろうの藤本さんは手と香りで梅を感じます。



▲みんなで記念撮影 ☆ 見事な梅林です。

2月20日(土)、南あわじ市広田にある広田梅林に今年やつと咲き始めた梅の花を見学しに行きました。春近しの良い天気、みなさんの久しぶりの外の空気を満喫されました。春の訪れを告げる梅の花。訪れなさん笑顔がこぼれました。盲ろう者の藤本紀代さんが花や木を手で触って、香りやかいで、全体で春の息吹を感じていたのが印象的でした。他の入所者さんも満悦の様子でした。(介護・角村)

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川原町
 中川原28番地1
 TEL:0799-25-8550
 FAX:0799-25-8551

出しもき
 春した1始厳
 はて°月めし
 もい田にるい
 うまん植季冬
 すぼえ節を
 す°のたで乗
 ぐ°あ玉すり
 そ°せね°越
 こ°道ぎ淡え、
 所では芽ふく3
 ずはつくしう
 ぐ°ししが始の
 ぐ°芽め郷が
 ぐ°をまで動

灯かりをつけましょ♪ひなまつり

淡路ふくろうの郷には、ご好意でいただいた雛飾りが3つあります。今年も職員・入所者で全部飾りました。3月の誕生会の昼食には、かわいいお雛様とお内裏様が登場。「写真左下」着物はお刺身・頭はウズラ・目はゴマ・頬紅はケチャップ・扇はキュウリです。食べるのが勿体無いくらいですね。手芸講座で作った「雛ウサギ」は、来年在り年ということもあり、お客様からとても好評でした。これからも季節感あふれる暮らしを入所者さんと共に送りたいです。



誕生会昼食



▲三羽官女☆



ユニットでウサギを製作中☆



▲手作り雛ウサギ



春の節句をお祝い

入所者紹介 中務幸子さん



手話サークル麦の会のみなさんと

中務幸子さんは平成21年9月、岡山県岡山市から淡路ふくろうの郷にお越しになりました。現在84歳です。

10歳から20歳頃までフイリピンで生活され、帰国後、聾学校に通い、日本語を覚えられ、生計は畳作りや洋裁などで立ていらつしやいました。(60歳頃から自転車に乗り始めたそうです)

彼女が生活するユニットは、ろうあ者19名・健聴者1名ですので、手話でお話

しされることが多く、そのことをとても喜んでいらつしやいます。

入所されて間もないころは車椅子で移動されていたのですが、今は歩行器を使い、自力で歩かれています。

他にも、ユニット内の洗濯物たたみを毎日、手伝ってくださいいます。作業(縫物・つまようじ入れ作り)に熱心に取り組みれたり、買物やおやつ作り、外食に積極的に参加されたりと、入所されたばかりの頃と比べると、表情もとても明るくなられました。

岡山県のろう者や手話関係者の間では、今、中務さんはとても有名なのだそうです。「岡山にいた頃は心身ともに弱ってしまい、みんなでもとても心配していた



ユニットの洗い物のお手伝い☆



誕生会ではローソクをフ〜!

けれど、ふくろうに来たらどんどん元気になって本当にビックリ!」と、以前、面会に来られたろう者のお友達が発信元となり、岡山県内で「ふくろうはスゴイ:」と話題になつているそうです。

2月に見学に行らした「手話サークル麦の会」のみなさんも「これから岡山からの見学、増えると思うよ」とおっしゃっていました。

中務さんは岡山のお友達のことをいつも気にかけていらつしやるので、お話しができてとても安心され、喜ばれていました。

またこれからお友達がたくさん会いに来てくれるなんて、中務さん、楽しみです。

(介護:酒井)

部署紹介⑨



淡路聴覚障害者センター 淡路聴覚障害者センター相談支援事業所

地域活動支援センターおのころの家内)では、専任通訳者1名が兼任し、様々な障害(身体・知的・精神)をお持ちの方や家族の相談を受けています。今後とも一緒に暮らしやすい街づくりを考えていきたいと思います。

(吉川 稔)

平成9年6月、1市10町(現:淡路市・洲本市・南あわじ市)によって、洲本市健康福祉館内(みなと元気館)に設置され、現在職員は4名(聴覚障害者相談員1人、専任手話通訳者3人)です。

センターの仕事は、手話・要約筆記奉仕員養成講座や手話通訳者、要約筆記者派遣等、ろうあ者・難聴者・中途失聴者の方のコミュニケーション支援をはじめ、日常生活に関わることについての相談支援、書籍・ビデオの貸し出し等も行なっています。

又、淡路聴覚障害者相談支援事業所(場所)



- ・花房豊治 (85)
- ・久保田福江 (94)
- ・吉田みさ子 (81)
- ・福島豊子 (79)

おめでとう☆3月生まれの皆さん



- ・樫田文吉 (86)
- ・濱田良介 (相談)
- ・船越健太 (介護)
- ・沖田依美 (介護)
- ・高田富美枝 (介護)

※名前紹介は写真左上から順に。

ソフト食の取り組み

高齢になると「噛む・飲み込む」ことが難しくなる為、淡路ふくろうの郷では食形態を4段階(普通・刻み・極刻み・嚥下)にして提供しています。

極刻みや嚥下食は、普通食をミキサーにかけるのでドロドロしていて見た目が悪く、元の食材が何か分からない状態です。「極刻みや嚥下食も見た目を良くして、普通食に近づきたい」と昨年10月よりソフト食を開始しました。

ソフト食は、食材ごとにミ



ソフト食の「マーボー豆腐」。普通食と変わらない見た目です。

ボランティアさん紹介⑤



いつも優しい酒井先生

淡路ふくろうの郷でカイロプラクティックのボランティア施術を始めて、2年の月日が経ちました。早いものですね。

毎回、利用者さんとふれあうのが楽しみです。みなさんの笑顔に元気づけられる私ですが、このボランティアをするようになって、利用者さんがどんどん元気になっているのがとても嬉しいです。みなさん、これからもよろしくお願ひ致します。(酒井英次)

ふくろうHP

<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

毎月1回の更新を目標にがんばって作っています。ぜひご覧下さい☆

(調理：岩林)

キサーにかけ、特殊ゲル化剤を加えることで、元の料理のように再現ができます。見た目は普通食と同じで、食材そのものの味も感じることができのです。

開始当初は失敗も多くありましたが、今では調理職員全員が作れるようになりました。盛り付けも工夫しながら、美味しそうな食事提供を心がけています。

「どんな食事でも見て楽しめて、美味しい食事」を今後提供できるよう頑張りたいです。

リレーエッセイ

評議員・朝倉宏

「自立支援法の応益負担(1割負担)は憲法違反である」として、全国13地方裁判所に提起された、71人の原告による「障害者自立支援法意見訴訟」は、2010年1月7日、自立支援法の廃止と新しい障害者福祉制度の創立を目指す「原告・弁護団と国との基本合意」が成立し、裁判の最終手続きに入った。訴訟は、4月21日の東京地裁を最終にして「終結」の予定である。

このような裁判史上例のない、訴訟当事者と国との合意がなぜ成立したのであろうか。

障害者自立支援法が実施されてからの、障害者運動の全国的発展には目を見張るものがあった。私は、神戸文化ホールで行われた、「応益負担反対」の最初の集会に出て、「これはこれまですごい」と直感するものがあった。その結果の幅広さと速度は、これまでの運動では見られないものだった。それは運動している当事者の予想を超えるものであった。このようなことが起こったのだらう。

まずは、「応益1割負担」という、自民党・公明党政権による、あまりにもひどい「障害者福祉の改悪」であったこと。

それは、これまで「自民党の支持団体」であったような障害者団体の中でも、怒りに震える構成員の声を抑えることが出来ないほどのものだったこと。

そして「きょうされん」に結集する熱心な運動団体の「呼びかけ」が、これらの団体にも通じて、期せずして「障害者団体が一堂に会せざるをえなく」したものであろう。

次に、この障害者運動を取り巻く情勢が、「介護保険」以来の「お年よりいじめ」や、あの「記録問題」に象徴される「年金問題」など、国民の怒りが渦となり、社会保障の改悪に反対する運動がこれまでになく高まり、それらが総選挙での「自公政権の退場」につながったこと。まさに、「世論と運動が政治を変え、そのあたらしい民主党政権の下で、選挙公約(マニフェスト)が早くも「死文化」しつつあるとき、「基本合意」を実現させることは、切実な国民要求実現のたたかいの先陣を切る名誉あるたたかいになる。

地域を語る

第15回

農業の祭神

社日さんのお祭り

北岡 肇

春と秋の彼岸の中日に一番近い戌ツチノエの日は社日さんのお祭り、最新ではその日に近い日曜日に行われるところが多い。

社日信仰はもともと中国伝来の風習で、江戸時代の末頃、寛政元年(一七八九)の阿波藩主の蜂須賀公が農業祭神であることから「必ず祭るように」とのお布令を出したことから徳島や淡路で盛んにお祭りが行われ、全島では二六九基、洲本市内では三七基が残っている。

祭神は五角型の石塔アマテラスオオミカミに北向き正面、天照大神(福麦・粟稗豆の栽培を



獅子舞が奉納される中川原の社日祭

参考文献
(淡路島の社日信仰)

19日、秋は9月25日。行われる。本年は春3月

始めた)、右回りに大巳オオナハシ貴命ミコト(人畜の病気を癒す)、少彦名命スクナヒコナミコト(鳥獣昆虫の被害を除く)、埴安ハニヤス姫命ヒメミコト(土の御祖神山川草木を育てる)、倉稻魂ウカノミタマ命ミコト(積みたたくわえる)。

当日は正面にお神酒、各神様に赤飯、味噌汁、魚などをお供えして村人たちが集って春は豊作、秋は稲穂を供えて実に感謝してお祭りが行われる。本年は春3月

第8回ふくろう学習会お知らせ

特別養護老人ホーム いこいの村 (梅の木寮)

施設長 奥本初実 氏

いこいの村の成り立ち・実践 ~これからの展望~



▲H21年7月、ふくろう BBQ 大会にて。写真中央が奥本さん☆

3/27 (土)
15:30~17:30

◆場所:淡路ふくろうの郷◆
◆参加費:500円◆

高齢聴覚障害者施設の草分け、京都府綾部市「いこいの村」の運動の歴史、実践等をお話しいたします。

「ふくろう新聞のバックナンバーをいただけませんか？」と先日、中川原町厚浜にお住まいのH・Tさんから電話をいただきました。H・Tさんは「地域を語る」のコーナーを毎月楽しみにされているのだそうです。

ふくろう新聞は職員含め、いろんな方から原稿をいただき、それを広報委員の私たちがまとめて、写真と共にレイアウトしてま

編集後記

す。H・Tさんのような方がいてくださることを知り、私たちは本当に嬉しくなりました。そして、ふくろう新聞を作る意味を改めて実感し、更なる意欲が湧きました。

私たちは、読んで見て楽しい、それだけで、社会に問題提起できる新聞を目指しています。これからもたくさんのご意見、よろしくお願ひします。

広報委員一同

平成22年度ふくろう手話教室 ~受講生募集~

一年間、ありがとうございました。



手話教室の様子

ふくろう手話教室は、一人でも多くの方に聞こえないこと・ろうあ者のこと・淡路ふくろうの郷のことを知っていただくため、そして、地域の方々との交流を深めるため開講しています。

日々の出来事や季節をテーマに、毎回みなさんと楽しくおしゃべりしながら進めています。地域の伝統行事や昔からのしきたり、最近旅行に行った場所など、受講生さんから私たちもたくさんのことを教わります。

お気軽に淡路ふくろうの郷までお問い合わせください。たくさんのお申し込み、お待ちしております☆

(平成21年度 担当職員・・・三谷、森岡)

ふくろう喫茶
3/21 (日)
13:00~15:00

ふくろう喫茶で淡路ふくろうの郷の入所者さんと楽しい時間を過ごしませんか。
・コーヒー・ココア・紅茶
・カルピス などなど ¥200 より